

空港の利活用が周辺地域に及ぼす効果の事例①

- ① 仙台空港の周辺では、空港機能を活かし産業・交流誘導エリアとしてのまちづくりが進められている。
- ② 空港周辺地区では住宅地や工業地として市街地編入が進められ、さらなる地域活性化が期待される。

仙台空港の利活用と周辺への効果

仙台空港では2016年7月に運営を民間委託して以降、LCCの誘致や国際線路線の拡充を行っており、利用客が増加している

年度	発着回数	旅客数	空港の動向と周辺への効果
2015年	727回 24,415回	160,169人 2,954,079人	3月 ホテルルートイン名取岩沼インター開業
2016年	940回 24,011回	225,551人 2,937,046人	7月 民間委託 3月 名取中央スマートインターチェンジ開通 8月 「臨空巡回バス」試験運行開始
2017年	1,117回 25,288回	280,667人 3,158,572人	8月 「臨空巡回バス」運行開始
2018年	1,122回 26,568回	311,377人 3,301,361人	10月 旅客搭乗施設 ピア棟の供用 9月 矢野目西産業用地分譲 12月 イオンエクスプレス開店
2019年			4月 イオンモール名取 増床

発着回数・旅客数 上段が国際線、下段が国内線（空港管理状況調書）

仙塩広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（H30年5月）
市街地区域の編入予定地区に、仙台空港周辺地区である名取市美田園北、岩沼市矢野目西が対象となっている。

美田園北
6.5ha（住居系）

矢野目西
20.0ha（工業系）



名取市都市計画マスタープラン（H30年12月）

将来都市構造では空港周辺を「産業・交流誘導エリア」として位置付け

下益田地区の構想

- ・レクリエーション等のにぎわい・交流を創出する土地利用の誘導
- ・空港関連産業や物流関連産業の誘導の検討
- ・空港支援機能やエアポートホテルの誘導
- ・魅力向上に向けた農地の活用の検討
- ・仙台空港と臨空拠点の連携充実
- ・美田園駅や空港周辺と他地域を結ぶ自転車ネットワークの確保 など

空港機能を活かしたまちづくりが計画され、産業の活性による雇用促進、交流施設の整備、生活利便性や魅力度の向上などが期待される

岩沼市都市計画マスタープラン（H29年3月）

将来都市構造では空港周辺を「臨空工業拠点」「新産業拠点」「広域交通拠点」として位置付け

東部地区の構想

- 工業地エリア：利便性の高い交通条件を活かした既存工業団地の操業環境強化
- 新産業エリア：良好な交通条件を活かし、産業の誘致を図る
- 既存宅地の住環境および周辺の住宅地、集落、営農環境との調和
- 交通：長期未着手の都市計画道路の計画的整備

仙台空港の民営化を契機とした産業振興に力を入れ、雇用促進等、地域の活性を目指している

空港の利活用が周辺地域に及ぼす効果の事例②

- ① 高松空港の周辺では、道路整備が進められているため、地域住民にとっても利便性が向上している。
- ② 中部国際空港の周辺では、複合的な都市機能を有する地区としてまちづくりが進められている

高松空港の利活用と周辺への効果

高松空港では2018年4月に運営を民間委託して以降、ターミナルビルの拡張やアクセス改善等に取り組み、航空ネットワークも拡充している

年度	発着回数	旅客数	空港の動向と周辺への効果
2017年	1,107回 8,205回	297,925人 1,698,144人	
2018年	1,076回 8,424回	321,530人 1,770,865人	4月 民間委託 7月 神戸税関高松空港出張所が開所 3月 高松空港連絡道路の高架区間の開通 6月 研修特化型施設レクトーレ高松開業 11月 シェアサイクルポートの設置（空港・さぬきこどもの国） 12月 アパホテル高松空港 増室
2019年	台北便増便		

発着回数・旅客数 上段が国際線、下段が国内線（空港管理状況調査）

高松市都市計画マスタープラン（H29年8月）

空港を有する地域の利便性を活かした付加価値の高い農業や情報ソフト系などの戦略的な産業の育成

南部地域のまちづくり方針

- ・既存の工業地を中心とした産業の振興
 - ・拠点施設をつなぐ自転車ネットワーク形成
 - ・地域高規格道路高松空港連絡道路の整備促進
- など

道路整備

香川県は四国横断自動車道高松西ICと高松空港を結び、アクセス性を画期的に向上させる道路として、高松空港連絡道路(5km)を整備中

高松空港のプラン

運営民間委託にともなうマスタープランの中で、空港に併設して、アクティビティ施設を新設することをと計画している

空港機能を活かしたまちづくりによる産業の活性やアクセス性の向上のほか、民間委託によるレジャー機能の拡充も期待される

中部国際空港の利活用と周辺への効果

中部国際空港ではインバウンドによる需要の高まりで、年々国際線路線を拡充してきている。

年度	発着回数	旅客数	空港の動向と周辺への効果
2015年	18,590回 30,293回	4,886,499人 5,524,407人	9月 エアアジア・ジャパンの拠点化 12月 イオンモール常滑開業
2016年	19,438回 31,263回	5,216,829人 5,728,054人	4月 ホテルミラーゴ中部空港開業 4月 スプリングサニーホテル名古屋常滑開業
2017年	19,353回 31,133回	5,547,858人 5,975,299人	5月 ジェットスター・ジャパンの拠点化 4月 カプセルホテルTUBE Sq.開業
2018年	20,077回 31,577回	6,087,842人 6,256,786人	10月 フライトオブドリームス（飛行機を核としたテーマパーク）開業 10月 セントレアホテル新棟オープン 11月 フォーポイントバイシェラトン名古屋中部国際空港開業
2019年			3月 名古屋鉄道が早朝帯の輸送強化 3月 東横イン新棟オープン 8月 愛知県国際展示場Aichi Sky Expo開業 9月 新ターミナル供用

発着回数・旅客数 上段が国際線、下段が国内線（空港管理状況調査）

常滑市都市計画マスタープラン（H21年2月）※現在見直しの協議中

全体構想の位置付けでは空港周辺を「国際的な観光・交流拠点」の形成を目指すとしている

常滑地域の構想

- ・常滑駅周辺には市民も来訪者も利便性を享受できるよう多様な都市機能が複合的に立地する都市利用
- ・観光地としての魅力向上をめざし、拠点や観光施設の連携を強化
- ・憩いとにぎわいの海辺エリアの形成

玄関口としての魅力やにぎわいのあるまちづくりが期待される

空港の利活用が周辺地域に及ぼす効果の事例③

- ① 岩国錦帯橋空港の周辺では、空港アクセス道路の整備や、拠点駅の整備が進められている。
- ② 小牧空港の周辺では、航空宇宙産業集積地・産業観光拠点として活性化が図られている。

岩国錦帯橋空港の利活用と周辺への効果

岩国錦帯橋空港は2012年に共用空港となり、民間航空機の利用が開始された。

年度	発着回数	旅客数	空港の動向と周辺への効果
2012年	0回 436回	0人 102,576人	12月 民間定期便開 3月 市道が県道110号岩国錦帯橋空港線に指定
2013年	1回 1,453回	412人 351,844人	3月 フレスタモールカジル岩国開業 9月 岩国駅整備事業についてJR西日本と協定
2014年	0回 1,457回	0人 365,739人	1月 岩国駅周辺整備事業について知事の事業認可
2015年	0回 1,476回	0人 365,144人	
2016年	2回 2,035回	352人 451,195人	8月 ホテルトレンド岩国開業
2017年	0回 2,172回	0人 503,388人	11月 岩国駅の自由通路・橋上駅舎供用開始

発着回数・旅客数 上段が国際線、下段が国内線（空港管理状況調書）

岩国市都市計画マスタープラン（H29年3月改定）

交通整備・・・岩国錦帯橋空港の利便性向上に向け、主要幹線道路からのアクセス道路の整備を促進する、岩国駅や錦帯橋バスセンターとのバスアクセスの充実を図る

景観形成・・・主要な交通施設の周辺は、本市の玄関口として市を印象付ける重要な地区であることから、良好な景観の誘導を図る

道路整備

山口県は空港へのアクセス性向上のため、県道岩国大竹線のバイパス整備、県道岩国錦帯橋空港線の現道拡幅整備を行っている。

空港へのアクセス道路の整備等により、地域住民の利便性も高まることが期待される

小牧空港（県営名古屋）の利活用と周辺への効果

2005年の中部国際空港への機能転換により、小牧空港周辺では地元経済に影響が出た。これらの影響を縮小するため、元々あった航空機能や航空産業を活用する方向性で地域経済の活性化が図られた。

航空宇宙産業の活性化

「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」指定（2011年 国）

・アジア等新興国の追随を許さない航空宇宙産業の一大集積地の形成を図るために、愛知県・岐阜県が国際戦略総合特区として国から指定を受ける

航空機の生産・整備拠点を誘致するための地区計画（2013年 豊山町）

・県が旧国際線貨物ターミナル跡地等に民間航空機の生産・整備拠点を誘致に着手
・豊山町は町の計画と合致し、経済活性化が図られるとして、市街化調整区域である当該地域を航空機関連の工場の用途とする地区計画を定めた。

地域経済活性化のために県等が誘致・開設した主な施設

JAXA

名古屋空港飛行研究拠点

愛知県等が誘致。2011年に開設。実験用航空機「飛翔」を用いた研究開発の拠点となっている。

あいち航空ミュージアム

2017年にエアポートウォーク名古屋に隣接して開設。航空分野の産業観光拠点。

MRJ 最終組立工場・ミュージアム

愛知県等が誘致し、2016年より稼働。2017年にはMRJミュージアムも誕生。

エアポートウォーク名古屋

国際線ターミナルビルを再利用し2008年に誕生した大型商業施設。



空港の利活用が周辺地域に及ぼす効果の事例④

① 羽田空港（国際線ターミナルの開業）により周辺では、拠点駅等の整備が進められている。

羽田空港の利活用と周辺への効果

年度	発着回数	旅客数	空港の動向と周辺への効果
2009年	6,336回 161,465回	2,756,542人 59,334,725人	
2010年	12,035回 163,805回	4,818,314人 58,808,107人	10月 羽田空港国際線ターミナル駅開業 10月 羽田空港国際線ターミナル開業 ※羽田空港跡地まちづくり推進計画
2011年	18,552回 173,806回	7,267,172人 56,424,630人	※アジアヘッドクォーター特区(第1ゾーン)
2012年	20,309回 174,556回	7,948,089人 58,752,301人	
2013年	20,997回 182,643回	8,039,080人 61,410,028人	
2014年	30,026回 186,599回	11,558,276人 62,656,711人	※東京圏国家戦略特別区域(第1ゾーン)
2015年	34,668回 186,413回	13,434,345人 62,553,383人	※羽田空港跡地第1ゾーン整備方針
2016年	40,166回 184,541回	15,642,093人 64,242,698人	
2017年	42,320回 184,129回	17,120,272人 66,412,641人	5月 リージャスエクスプレス羽田空港 第1ターミナル
2018年	43,737回 183,894回	18,164,341人 67,528,066人	
2019年			
2020年			6月 デンソー自動運転開発の新拠点を開設 6月 羽田エアポートガーデン (ホテル・飲食・物販施設、温泉施設、 パントホール、バスターミナル) 夏 天空橋駅エリア「Zepp」ホール

発着回数・旅客数 上段が国際線、下段が国内線（空港管理状況調査）

羽田空港跡地まちづくり推進計画（H22年10月策定）

第1ゾーンから第3ゾーンに分割し進めるが、第3ゾーンは再拡張事業後の需要動向を見極めて検討する。

【まちづくりの基本的方向性】

- ・ 空港を活かす：人が集まり、憩い、楽しみ、高度な充足感が得られる交流拠点を創出する
- ・ 空港と連携する：空港に密接な関連がある施設、空港へのアクセス交通等を充実し、空港の発展を図る
- ・ 周辺と調和する：市街地に隣接した緑のオープンスペースが開け、環境との共生を目指した潤いと安らぎのある空間形成を図る

道路整備

環状8号線の整備：増大する空港アクセスや跡地利用に支障のないよう、地区を通過する交通の円滑化を図る

交通拠点の整備

第1ゾーン：天空橋駅を核とする交通結節機能を向上させるため、駅前広場（バスターミナル、タクシープール等）を配置する

第2ゾーン：国際線旅客ターミナルビルを核とする交通結節機能を活かしたまちづくりを実現する

